

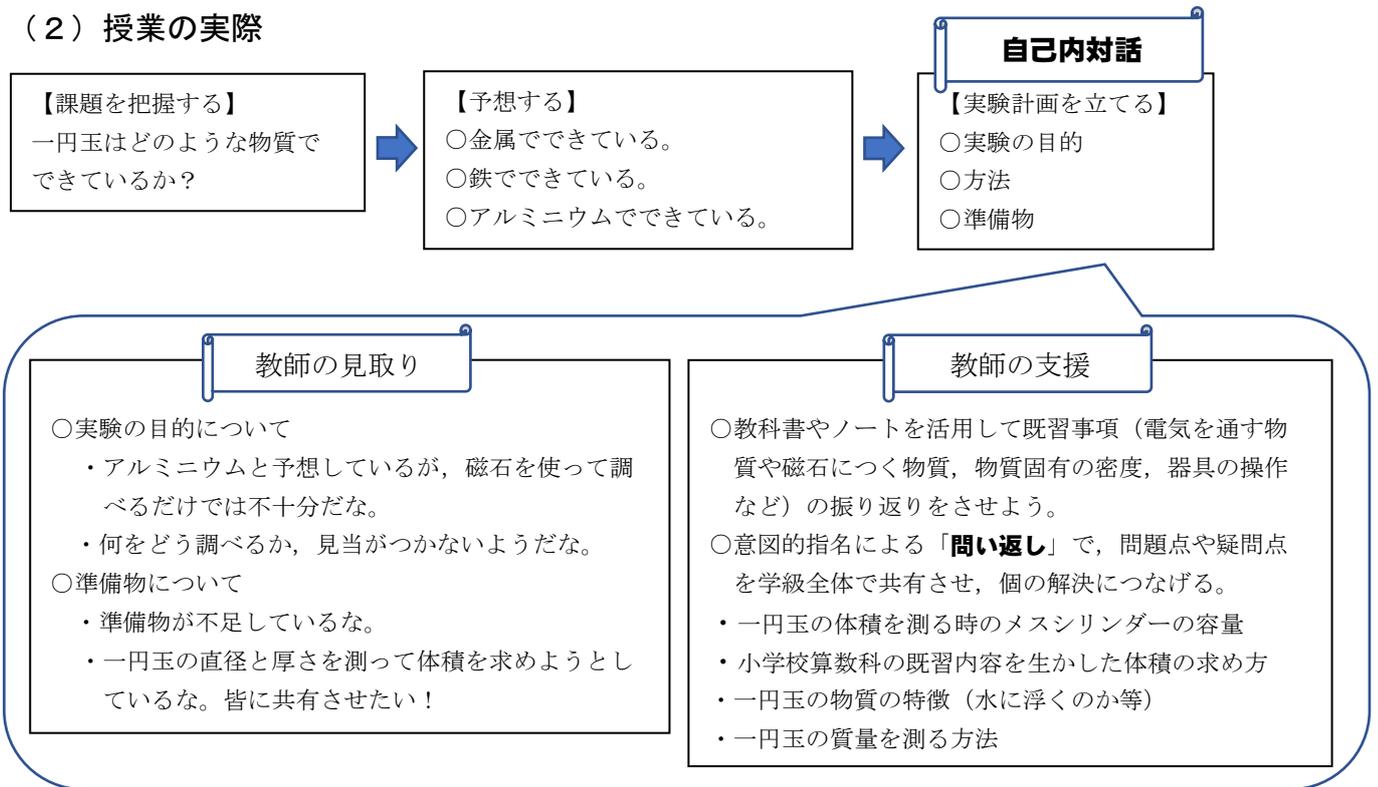
「自己内対話」と「問い返し」による個の支援の実践

～一円玉はどのような物質でできているかを調べるための計画書作りから～

(1) はじめに

新型コロナウイルスの感染拡大防止の観点から「『新しい生活様式』に対応した『授業改善のすすめ』」（相双教育事務所）をもとに、生徒同士の協働や生徒自らの学びの振り返り（「**自己内対話**」）を充実させることで自己の考えを広げ、深めることができると考えた。また「ふくしま『授業スタンダード』」をもとに、生徒一人一人が実験計画をどのように考えているかを教師が見取り、その内容に対して「**問い返し**」を行うことで、個に応じた支援を充実させることができると考えた。

(2) 授業の実際



実験計画を立てる場面で、生徒が「**自己内対話**」を行う時間を十分に確保することで「実験の目的」を設定することができた。【資料1】また、生徒が考えた実験計画をもとに、教師が「密度を求めるために体積や質量をどのように求めるのか」について「**問い返し**」を行い、問題点や疑問点を学級全体で共有することで、生徒たちは自らの実験計画に足りない内容を追記することができた。【資料2】

目的

密度を調べることで、一円玉がどのような物質から出来ているかを調べる。

目的

石磁石につくかどうかを調べて、一円玉は鉄か金鉄じゃないかを調べる。

【資料1 (※生徒のノートより抜粋)】

一円玉、電子てんびん、メスシリンダー (50ml)、資料集

調べる物(一円玉)、メスシリンダー (50ml) (金鉄)、電子てんびん、電圧計、資料集

一円玉、メスシリンダー、上皿てんびん、分金目(電卓)、(定規)

【資料2 (※赤線は生徒が追記した箇所を示す)】

(所属：相馬市立中村第一中学校 菅野 貴恵子)